(日刊) (明治四十一年七月四日第三種郵便物認可) 明治四十一年七月七日 京城新聞 (火曜日) 第二號 (一)

京城新聞

●余の人物月旦

翠山生

▲余は去月下旬迄發刊し居りし「京城新報」一面の本欄に於て日本當該官吏の重もなるもの及び韓國諸名士の性情行徑に就て忌憚なく論評し、品隲する所ありたり、余固より文技に於て拙、觀察に於て淺、敢て波瀾常なく變幻一ならざる現代生存中の人物を捉へ來りて之が論評、品隲を試むるの甚だ僭越の業たるを知ると共に又其の能にあらざるを覺らざるにはあらざるも、余が人物批評に對する趣味の念と好尙の心とは余をして不知不識の間に其の天禀の鈍眼を着け禿筆を揮はざるを得ざるに至らしむるものあり思ふに余の趣味好尙も亦ソレ一種の風變りともいふべき乎、

▲余の趣味好尙は既に叙上の如し、余が短才禿筆の姿を以て好んで人物の月旦品隲に筆を執る又固より其の所たり 而して余は其の人物の月旦なるものが往々にして人を誤り其の人物をして廬山の眞面目を距ることの益々遠きに眉を顰めしむるものあるを見て轉た痛嘆の情に堪へざるものあり、區々の毀譽、微々の褒貶、固より一世に秀んずる大人物にありては敢て意に介するに足らざらんも苟も筆を取つて世に立つの士は大に爰に意を用ひ心を注ぎて之が人物の眞相を最も精明に的確に批評せざるべからず彼の權勢に阿附せんが爲め徒らに筆を曲げて其の人物の非を蔽ひ曲を秘し却つて殊更に其の人物を稱揚するが如き或は一片の怨恨憎惡より强ひて醇潔にして正廉なる人物を誣罔詆辱するが如きは之れ固より共に談ずるに足らざるなり、

▲然りと雖も人物月旦の業たる決して容易に非ざるなり、否な寧ろ操觚者の業として至難中の至難事に屬すといふべし、而も生存中の人物に對する又一層の至難事たるを免れじ、思ふに棺を蓋ふて事定まる蓋し人物の功過たる其の梢肉の地下に横はるに非ざるよりは輕しく之に毀譽褒貶を加ふべきものにはあらざるなり、浮沈盛衰水の流れと定めなき人間の生涯はタトヒ其の大半を惡業罪過の下に送りしとはいへ其の息三寸の斷末魔に於て又必ずしも之が過去に於ける罪過を打消すべき如何なる善行美蹟を演ずるやも豫め測り知られざるに於てをや況んや年尙ほ淺く、前途望ある有爲の士に於てをや、而も現代にありては此の生存中の人物は月旦品隲するを以て時代の流行事となす、思ふに明治の照代は文壇にも亦一新機軸を開きたるもの乎、

▲さはいへ余は余の趣好上其の人物の現代と過去に於けるとを問はず、唯有りの儘に之が月旦品隲を試むるを以て快事となすものなり、而して言ふ迄もなく之れが批評に筆を執るに當りてや最も愼重の態度と綿密の考慮とを以てし、一事一節其の眞を穿ち要を得ることに努め陰筆の間寧ろ惱々焉として其の人物の眞相を誤たざらんかを懼るゝの頼りなり思ふに之れ他にあらず、余の衷心偏に仲々として之が人物の是非曲直に就き稱揚の筆其の眞を傳へ該を捉へんことを欲する上に於て少なからざる苦心を費すものあるを以てなり、然りと雖も余や固より萬能にあらず、千慮の一失時に或は今後世人の非難を蒙らざるものなしとせず、而も余や大方讀者諸君の教ねを俟ち言を容るゝに吝ならざるなり、今や紙改まり號新なるに及んで又余が趣好とする人物月旦の今后紙上に掲載さるゝものなしとせず、而り余が筆を[illegible]て爰に人物月旦に就ての感想を述ぶる亦固より其の所たり、

●園藝農産物需給狀況(續)

右に揭ぐる韓國在有の果實、蔬菜、花卉雜類のものを以て直に園藝農産物と稱するは穩當を欠ぐが如しと雖も園藝の發達したる國に於ては各其固有の目的に於て栽培し相當に園藝農産物たらしむべきを以て玆に之を農藝に供し得べきものとしての意味に於て分類排列せり

韓國に於ては果樹は栗、梨、桃、李、胡桃、の類蔬菜に在りては白菜、大菜、甜瓜、茄、豆、豆芽、瓠、水芹、番椒、蒜の類は其嗜も厚く需用隨て多ければ各地に栽培せられて稍園藝農産物たるの狀形を成せりと其他のものは殆ど自然の生育に委して施肥等の行はるゝこと稀にして多くは山澤に自生するものを採取して之を自家用に供し又は都會に搬出するに過ぎず我國の現狀に比しては殆んど言ふに足らざるなり

第二　需用狀況

(甲)果實支那より輸入する果實の中胡桃及び銀杏は專ら清韓人の需用に係り食用及菓子の原料に供せられ又調理の用にも供せられ栗は生食又は乾食として糖料に用ふる所なき韓國にては需用品にして需用多く産にては供給不足を告げ芝罘より輸入して之に搗き混ぜ販賣せるを見る梨及び桃は韓國産の果實に比し甘味佳良なるを以て價高しと雖も韓人は之を嗜好し賣行相應に多く其他果實に至ては實に日本人の需用に係り良果に乏しき韓國に在りては其需用最も多し(未完)

文苑

●高麗の舊都を過て詠る歌

高橋夏蔭

とこしへに、かはらぬ、いろの、名にし負ふ、松の都は、名のみにて、榮し高麗の、そのかみを、しのぶもあはれ、大殿は、こゝときけども、大宮は、こゝといへど、跡もなく、淺茅か原とあれはてゝ、時を得顔に、生しける、その八千草に、朝夕の、露てそやどれ、その草に、虫こそすだけ、こゝろなく彼方の山へに、並立る、松もみどりを、うしなへる、心地こそすれ、見るからに、此方の谷間の、姫百合も、なとか昔を、戀らめや、頃も五月の、空なれば、いよゝあはれを、ふりそへて、經りにし代々の、おもかげを、ひとりこゝろに、しのひつゝ、い行めぐりて、つぬさはふ、いしずゑ堅く、動きなき、その石橋を、來てみれば、君のためにと、大丈夫か、身もたなしらず、つくしてし、淸きこゝろの、血潮もて、そめし石橋、その橋は、人のかゞみを、五百年の、後の代今に、呉竹の、その名も高く、かたりつき、いひつかひつゝ、ゆく水の、絶ることなく、萬代に、すみわたるらむ、昔ゆ、ためしもあらぬ、雄心を君にさゝげて、潔よく、玉とくだけし、その跡を、今のうつゝに、見ればかなしも

●反歌●

昔の高麗の都は、あれはてゝ、ひばりのとこと、なりにけるかも。

大丈夫か、丹心を、とゞめてし、あはれ善橋、あはれ都路。

●折にふれて

信天翁

降り積る雪にたされし呉竹のふしもたはますかへる春かな

小說　新不如歸(四十六)

篠原嶺葉著



清子も母の辭に尾いて、

「眞實に然うですわね、あゝ云ふ無法な人は怒らしたら此方の損ですから、可厭でも怒らさないやうに爲るより外はございませんわ、妾も旦那樣の此度の一件も、奈何考へて見ても足柄の所業に相違ないと思はれます。」

と、云へば、百合子は聞き咎めて、

「ほんに妾、呼ばれて來ながら自分の事ばッかし話しましたが、何か急な御用がありまして、して兄樣の此度の一件と仰有つたのは、何の事なんです、何か兄樣に變つた事でもあるのですか。」

と、淚の目を袖に押へながら、心配相に聞くのであつた。

「實は來て貰つたも猶且其事が話たいから來て貰つた理だがね、お前が那樣心配な事がある上に、又心配事を聞かせるも氣の毒だと思つて、實は奈何爲やうかと思つて考へて居る所なんだ、しかしこれぎり話さずに置かれる事で無いから、話すには話しますが必ず余計な心配は爲ないが可いよ。」

と、您う注意を與へて、召使などに氣を配るのであらう、四邊を睇はした。

百合子は我身の心配も忘るゝまで案じ顔に

「心配なんか爲ませんわ、どうぞ早く聞かして下さい、兄樣が奈何かなすつたんですか」

槇子はやゝ聲を潛め、

「實はね、義祐は早くお前に知らせると云つたんだが、まだ結婚爲たばかりの所へ那樣事知らすも可愛相だから、後で妾から密と話して聞かせるからと云つて止めたのだ外の事ぢやないが、義祐はお前假に陸軍の方を休職になつてね、殊に依つたら甚麼大事件が起るかも知れない、日本にグズ〳〵しては居られないと云つて、其翌日の朝、まだ近所隣家が寢てる中に家を出て、他目を憚かるために態々品川から汽車に乘つて朝鮮から支那へ向けて出發しましたよ。」

百合子はびつくりする程驚いて、

「ねゝッ、兄樣が御休職になつて支那へお出でなすつたッて。」

「いや、お前の驚くのは道理だ、妾共も義祐から聞いた時は、眞個驚きましたよ。」

「して、何を爲にお出なすつたんですの。」

「それも聞きましたけれど、あゝ云ふ口數を利かん人だから、何にも詳しい話は爲なかつたが、何か目的があつて行つたには相違ないと思ふがね。」

「して何時頃お歸りなさるんです。」

「目的通りに行けば半歲か一年で歸るが、それが外れたら長く居るかも知れんと云つて居ました。」

「那樣に長く御滯在なさるのなら、些とでもお目に懸りたうございましたのにね。」

と、殘念さうに云ふ。

東城新聞

伊藤公の保護政策と吾人の理想

傳ふる處に依れば伊藤統監は幾日の後東京に歸らるべしと、特に伊藤公援助の下に存立したる西園寺内閣が崩壊したるにより一層行装を急にせられたるべし。

統監伊藤公は韓の保護經營に關して創始以來三年に亘れり、其間幾回か往復し、其來往毎に我聖天子より優渥なる信頼を被むり、其光榮の常に隆々として瑞兆の上に輝くの一事は我等深く仰瞻する所なり。

公は保護政策の創始に際して堅く持して動かざるの旨義を時々表白したり、則ち韓國の如く久しく强大の間に磨錬され、偉大なる教養と國民的平等なる文明の發育を得ざりし國家及國民に對しては、事實と忍耐によりて次第に化育すべき政策を行ふべく期せられたることとなり、成べく其國民の習慣性格、歴史を尊重して高等なる文明を漸次に扶植し、此國民をして、宗主國家の下に於て尤も柔順なる服從、尤も永遠なる同化尤も善良なる擁護を行ふべく期せられたることとなり、此理想は伊藤公の常に劃策し實行し、抱負とせらるゝ海外政策の上に於ても發顯したり、大凡公の過去幾十年間帝國の樞機に立つて行ひたる大小の外交を飾れる旨義は之に外ならざるは無し。

吾人が今日まで統監の政策に就て、或は贊し、或は非議したる所以は、實に此主義に悉く贊同せざるが故なり、吾人は韓國に對しては只だ帝國主義の實行のみ理想とせり、帝國が韓國を保護する所以のものは帝國主義の一階級として見認めたるのみ、昨年の政變以來韓人の暴擧並に帝國の政策を排斥せんとする思想の漸次波及しつゝあるを見るや、吾人の信奉せる對韓政策は伊藤公の如き遠大なる政策に忍耐することを好まず、高等なる人道をも喜ばずして幾次の論議を發表したるなり、只だ帝國の國民は盛んに膨脹し、帝國の勢力によりて盛んに拓植せられ、帝國の國旗を到處に建立せんことを欲したるのみ、然れども吾人に告ぐるものあり、曰くクロマー卿の埃及に於ける實に二十年間忍耐せり、而してアングロサキソン民族の勢力は次第に擴充し、漸次に堅實となれり、伊藤公の政策も亦た幾十年後に於ては世界に於ける最善美なる保護政策の一大模範となり、一大理想の遂行として尊重せらるゝに至るべしと、不幸にして吾人は未だ其幾十年をも忍耐し能はざる也。

漢城便り

▲東上中の曾禰副統監が無事歸任せられたるは居留民一同の喜ぶところに御座候御土産としては勸業銀行の外にも數多有之候由及聞申候從來閑却せられつゝありたる拓植事業が西園子爵に因つて奨勵せられんとするは一般居留民の認めて以て感謝するところに御座候

▲西園寺内閣も彌瓦解致候由右に付如何なる影響が韓國に來るべきやは言を要せざることゝ存候只拘腹に堪ざるは五日發行セウルプレスの社説に御座候内閣の變動を以て政治的意義を有せず單に便宜より出たる變動なりと言ふに至ては内閣を私有物視する呆夢の未だ覺めざるものと被察申候

▲四日發行の京城日報は閣内部次官の宴會に於ける記者の演説中の一節を誤載致居候新參先生故意にはあらざるべきも斯る誤聞を傳ふるに至つては容赦相成り難く候新下りの耳と筆とが斯くまで物騷なりとは記者の豫期せざりし所に御座候

▲若しも當局者が前に京城新報に臨みたるが如く京城日報に臨まんか本月三日發行の對韓經營と暴徒なる社説は當然取消を命ぜらるべきものと被存候日韓兩政府者が草賊と看做して討伐しつゝある韓暴徒を我往年の鎖國攘夷黨と似たりと申すに至ては言語同斷の次第に御座候大韓日報子己に御用紙の愚論に一鞭を加へられ候記者は水戸攘夷黨の末流として日報子の不倫の比を爲すを叱責するものに御座候

▲度支部が各銀行に對する干渉は殆んど極點に達せりとの事に御座候例せば五千圓の貸出乃至宴會費の支出等に至る迄皆度支部大臣の認可を受けしむるとの事に御座候如何に無利子貸下金を恩に被せるとは申せ銀行其者の發展を望まば度を越へたる干渉は控へらるゝが宜敷かと被存候窮鼠は時に猫を嚙むとの事に御座候

東京電報

▲桂侯の宣言

桂侯は後繼内閣員の候補者たるべき者を會し政黨政派に依らず超然主義により所信を實行すべき旨を告げたり

▲井上侯の奉答

井上侯は今日　天皇陛下の御召により至急參内し後繼内閣組織に付き御下問に奉答する所ありたり

▲元老桂侯を認む

桂侯の内閣組織は山縣公井上侯松方侯の各元老も適當と認め伊藤公も異存なき筈なれば明後日にも親任式あるべく其顏觸は前桂内閣の復活と見て大差なかるべし

▲桂内閣の顏觸

桂侯首相たらば内務大臣は大浦兼武外務大臣は小村壽太郎司法大臣は波多野敬直又は奥田義人遞信大臣は山縣伊三郎農商務大臣は清浦奎吾大藏大臣は都筑馨六又は曾根荒助文部大臣は芳川顯正又は久保田讓ならんと云へり

▲實業團の桂反對

中野武營等の實業團体は今日の財政計畫を立てたる者は桂侯なりとし同内閣成立の際は一層反對せんと宣言せり（以上五日發）

▲政友會代議士會

政友會代議士會は出席者六拾名あり長谷場代議士より政變の顛末を述べ首相が無責任に職を擲ちたるに對し種々難問あり更に代議士總會を開く事となれり（五日發）

▲首相官邸を引拂ふ

西園寺首相は昨日官邸を引き拂ひ私邸に入れり

▲統監へ御下問

畏き邊より伊藤統監に御下問の爲め日高内大臣秘書官には四日午後出發韓國に向はれしが右は伊藤公の奉答を煩らし其の上にて新内閣の組織を見るべしと

▲兩大臣私邸に入る

原内相松田藏相は官邸を引き拂ひ私邸に入れるが其の他の各大臣も兩三日の中官邸を引き拂ふべしと（以上六日發）

雜報

●元老の統監招待

伊藤統監は過般韓國元老其他を官邸に招き饗應する處ありたるが昨日午後一時三十分より右の回禮として閔泳奎閔泳徽閔泳韶の三氏其他各元老は統監を中署校洞の李址鎔氏邸に招請し盛宴を張りたりと

●曾禰副統監の歸任

同副統監は豫定の如く一昨日午後八時三十分南大門着の列車にて着京統監府各高等官其他多數の出迎を受け直ちに大和町の官邸に入られたり

●副統監談話

曾根副統監は下關に於て往訪大每記者に向ひ下の如く語られたり曰く嘗て大藏大臣をやつて居た時代に下關の水道設計及び之が財源の調達に奔走してやつた縁故で同地の有志者より是非一度出來上つた水道を見て呉れとのことにつき四日同市の水道を一覽して同夜出發する積りぢや▲伊藤統監がね本月中旬迄には歸朝する筈ぢやいづれ夏中は滯在のことになるであらうイヤいつも暑い時と寒い時とは己れが留守番さアハヽヽ▲韓國も政治の方は漸々改良の緒に就たから之からウンと拓殖事業に骨を折らねばならぬ世人は此拓殖事業を造作もない樣に考へて居るらしいが中々ソウは行かぬ

●調査局の責任問題

一進會對雲峴宮の問題となれる龍川府土地事件の過去に於ける帝室有及び國有財産調査局の執りたる處置は閑けるが儘昨報せし如く今更に聞く處によれば同調査會は此の問題が多數關係人民の休戚に關する重要事件なるに拘らず委員長の不在中且委員中の主なる人々二三には充分事件の内容を知らしめずして突差の間に昨報八名の委員が雲峴宮所屬なりと決定したるものゝ由にてため調査局は既に廢局となりたりと雖も當時の委員の責任問題なるべしと云ふ因みに本問題の眞想に就ては農商工部及び内部に於て詳細調査中なれば遠からず前後の關係明白なるに至るべし

●財務署の變更

地方財務機關は官制上財務監督局及び財務署の二階級となり居れるが實際に於ては管轄部の大小により財務署を甲乙丙丁戊の五種とし甲種財務署は觀察府所在地にありて日本人高等官を配置せるも乙以下は大抵判任官を配置して事務を處理せしめつゝあり然るに今回平安北道、忠淸北道の兩觀察府移轉せられたるを以て兩道の甲種財務署は共に新觀察府所在地に從き舊觀察府所在地には乙種又は丙種の財務署を置く事に變更せらるゝ筈なりと云ふ

●本社長の演說に就て

去る二日閣内部次官が京仁間の新聞記者を招宴せられたるとき本社長の爲したる席上演說の梗概は左の如し

前略新聞を書く程六ヶ敷ものはあらず余は京城新報時代に於て始めは統監政治に就きても成丈抽象的に論議したるに或方面の人々は抽象的論議の益なきを以て責められたり仍つて中途方針を變じ彌所信を公にせんが爲具體的論議を試みたりしに之亦或方面の歡迎するところとならず遂に李完用辭職勸告に到つて發行停止を蒙るに至れり今回新たに京城新聞を發刊するに及んで余は大に惑へり幷は抽象的にせんか將具體的にせんかを、されども最後の運命の何れにしても同じかるべきを思へば寧ろ具體的に論議するの可なるを認めて余の今日以後の論議は具體的と爲すことに決したり（中略）具體的に論議するの間には或は亦々發行停止の命に接するやも知れず併し京城新聞が兩三回發行停止を蒙むる間には李完用君も發行停止を蒙むるやも知れず云々

京城日報の傳ふるが如く李完用内閣が顛覆し宋秉畯が首相となるべしなどゝは決して申さゞりし主人岡次官始め列席同業者に於て邦語を解するもの了知するところなるにても何が爲に京城日報は餘興に等しき凡々たる席上演說を事々しく書立てゝ誤報を傳ふるにや新參氏たるもの操觚者の德義上反省して誤報の取消を爲して可なり

●會議所議員選擧會

京城日本人商業會議所に於ては去月末半數改選を執行し既に議員も確定したるに依り本日午後七時より同會議所樓上に於て第一回總會を開き會頭以下の役員の選擧を行ふ筈なり會頭の候補者としては第一銀行の市原五十八銀行の菅原及び中村再造山口太兵衛の四氏なるが市原菅原の兩氏は行務の都合上辭退すべきを以て多分中村氏當選すべしと一般に豫想せり

●漢城土木新計畫

漢城府内の土木事業は多年曠廢に歸し殊に河川の如きは全く放任せられ大々的浚泄を要するにも拘らず本年度の漢城土木費豫算は僅に一萬四千圓にして充分なる計畫を立つる能はざるを以て今回更に五萬圓を追加して河川の浚泄其の他漢城府内の土木工事に着手する計畫なりと云ふ

●賊魁許爲の重罪

京城憲兵隊にて豫審中なりし財産巨魁元參贊許爲は重罪と認められ昨日平理院に廻送さるべしと云ふ

●賊魁李道一

六月二十日忠淸南道鴻山警察分署巡査二名が庇仁郡方面偵察中商人に變裝して徘徊しつゝありしを直ちに逮捕したる賊魁李道一は客年暴徒蜂起以來鴻山郡を中心とし保寧、藍浦、野川、庇仁、韓山、青陽、定山地方に亘り暴行を逞ふし常に部下十數名を率ひて義兵と自稱し庇仁駐在所並に同所學校を襲ふ事二回其の他各地に於て日韓人を殺ひたる事枚擧に遑あらず同人は曾て閔宗植等と共に洪州事件に關係し捕はれて數ヶ月の禁錮に處せられたる事ありと云ふ

●新院の近況

新院附近農民は現今不絶作物の栽培に努め作物は近來天候晴雨の配合適度なるを以て發育好成績を呈しつゝあり目下至る處田植にて多忙を極めつゝあり市場は漸く寂として荷物の集散も稀となれり而して人民は漸次我指導に感化し教育の必要衛生の顧慮すべきを悟り事に物に改良の施政に傾き在駐官憲との意志疏通を求むるに至れり殊に從事收斂農民の如きは從來壓制を受け之れに反省をさへ試むる能ずして人權は一に收賄に因り保護せられ意外の塗炭に苦むの尠からざりしに我官憲の駐在以來此等の弊害を除くに至り俄然信頼の度を博進せしむるに至れり其民心の一變せしは蓋し從來面里長の惡政と異りて萬事公平無私なるを識認せしものならん而して面里長の如きも漸く人權の重ずべきを顧み前政を改め公益の尚ぶべきを顧慮するに至れり且つ一般の狀況は軍隊憲兵の駐屯に對し啻に賊徒の鎭壓に因らず韓國征略上日本の野心にあらざるやを私に嘆じ居たるも近來は全く是が妄信疑念を除き尚は今回憲兵補助員募集に就ては之が目的を周知せる地方は此等の點につき一層同情を表し韓國の安寧秩序の維持及び開發は一に我隣邦の助成に原因せることを疑ふものなきに至れり又賊狀に就ては附近及西北部は近來全く其出沒を認めず東南平山海州に隣せる地方に於ても少なきは三々五々多きは二十名内外の横行ある等にて彼等は洪君石、沈老術の卒ゆる者と認めらる而して其行動は多く夜間にして晝間出する時は數名つゝ村落に顯れ一見良民の如く裝ひて村民を拉したり或は歸順者を脅迫して賊類に投せしめんと努めつゝあり六月中二名拉去せられ一名は賊の脅迫に後難を恐れ家族諸共何れにか移住せり賊は再び徒黨を聚げんが爲め私に部下を募集し居る模様あり又現今彼等の行動は頗る巧妙にして其出せる斥候の如きは種々なる行商或は良民となり巧に視線を脫するの策を計れり

●元老大臣の懇話會

現内閣各大臣及び前内閣各大臣は毎年交代にて懇話會を催せるが本月は李學相の當番にて去四日正午より齋洞なる武官學校に開催し前内閣各大臣及び現内閣大臣其他勅任官數名來會したるが一同午餐を共にし歡談數刻午後四時散會

●記者消遊會

京仁記者通信員の諸氏十余名は一昨日日曜を好機とし打揃ふて閑靜幽雅を以て名ある貸六庵に赴き名物の蕃麥を共にし圍棊將棋に積日の塵を拂ひ夕頃に至る迄消興を恣にしたる由なり因に本會は同業者親睦の目的を以て毎月一回開催するとの事なり

●鑛業許可

六月廿四日より七月三日迄の許可は如左

金銀銅鑛三三〇〇坪慶尙南道昌原郡北面東面　京城吉野町一丁目　須瀨長康
黑鉛四八〇〇坪平安北道龍川府東下面　平安北道龍岩浦松村町五號地　谷口與四郎
銅鑛一八三一一坪慶尙南道昌原郡北面　京城南部笠井洞四十一統九戶　李鍾卣
鐵鑛四二八一四七坪慶尙南道昌原郡內西面　京城南山町一丁目五十八番戶赤壁次郎方　藻谷伊作
砂金四五〇〇坪平安南道順安郡東頭面　平壤大和町十三番戶　百瀨寬治
同　同　十七番地ノ三　小島慶太郎
同　南門通一丁目　笠原喜市
同　泉町十五番地　後藤芳次郎
砂金一七七六九坪平安南道平壤郡西祭山地方　京城中部磚洞十六統二戶　金箕變
平安南道順安郡各花面龍伏一里　金啓繩
砂金九八六二六坪平安南道順安郡龍興面自德面　東京芝區田町五丁目十六番地　淺野總一郎

●憲兵將校の進級

五日附を以て京城憲兵本部付將校左の如く進級せり

任憲兵大尉　憲兵中尉　村井關憲
　　　　　　憲兵少尉　田島勇助
任中尉　　　同上　　　安武基熊

●市原盛宏氏

北韓地方視察中なりし市原第一總支配人は本日歸城の筈なり

●小松書記官歸任

小松書記官は五日夜歸任せり

●竹秘書官

佐竹秘書官五日夜副統監に隨行歸任せり

●隈本書記官一行の歸京

京義沿線の學務視察のため出張中なりし隈本學部書記官同部學務局長の一行は昨七日歸京せる筈

●辭令（三日附）

任統監府書記官叙高等官四等　仙臺稅務監督局長　佐々木藤太郎

●補助憲兵將校の出發

今回駐韓各憲兵分隊に附屬したる韓國將校は何れも五日出發夫々任地に赴けり

●朴飜譯官の死亡

學部飜譯官兼事務官朴成圭氏は豫て病氣にて大韓醫院に入院治療中なりしも遂に昨六日朝死亡せり

公人私人

△加藤泰秋（子爵）　一昨日平壤方面より來京巴城館へ
△御厨剛次郎（九州火山灰社員）　一昨日來京巴城館
△中屋英馬（一等主計）　天眞樓
△黑井悌次郎（海軍大佐）　同上
△岩瀨基樹（鐵道管理局員）　釜山より來京同上
△有本源次郎（辯護士）　一昨日鎭南浦へ向
△佐伯平四郎（鳥取新聞記者）　山本旅館

●近事片々

▲西園寺内閣倒れ桂内閣成立せば統監は何人なるべきか之れ大に注目すべき問題也
▲曾根子統監となり副統監の職は廢さるべしとは一部に唱へらるゝ所至極尤の說也
▲總務長官に其人を得れば副統監は要せざる也偖斯くなると總務長官は何人なる乎
▲放屁一發する事若統監の意を覗ふ樣な人物では迚も此重職は遣り切れる者でない
▲愈々桂内閣成立すれば對韓經營の上に於ても多少の異動は免れずとは一般の豫想
▲山縣公の警告なるものは之を證據立るに非ざる乎何とかチキバキ遣付るだらうよ
▲東京邊では早川頭鐵が總務長官に適當抔とぼつ〳〵噂する者もあると隨分氣早い
▲伊東巳代次が閣臣に列するか或は副統監になる坏の說もある今暫くは噂の時代也
▲曾根副統監既に歸任せらる腹中如何なる消息を齎らし居るか聞まほしき事共に候
▲西湖先生歸任早々多忙にて例の葉唄や都々逸を捏ねる暇あらざるも新作承りたし
▲地方官制を改革して日本人官吏を增加し大に刷新せんと余り技葉に耳走るは不可
▲寧ろ要所に適當の人材を置きて大綱を握る的政策と可とせずや重箱楊枝は失敗也
▲日人小官吏を數多任ずることは韓人等の深く嫉忌する所之れ策の得たる者に非ず
▲渠等の反感に頓着なく斷行する勇あらば咎めざるも些細の事に躊躇するに非ずや
▲宋秉畯近時の氣餤は實に當るべからざる者ありと余り調に乘ると躓く時來るべし
▲所說を聞けば立派なる國士の如くなるも其心事を正當に吐露せる者やは疑はしと
▲思ひ切て放言する所が渠の長所で又短所なる乎由來韓人には往々斯る性質の者有
▲好で內相となりしは其抱負を實行せん爲なりと謹で其手際を拜見せん耳大に振へ
▲地方行政の刷新は最難事也到底觀察使の人物に待たざる可らず今後の成行や如何
▲一代の色魔として天下の士女を震駭せしめたる男三郎も終に死刑に處せられたり
▲死刑の定るや渠翻然として諦悟し從容として死に就けりと地下の寧齋亦微笑せむ
▲新橋照近江のお鯉歎じて曰く西園寺の御前を何時迄も總理大臣にして置きたいと
▲世間の人は意地が惡ひ御前を寄て集て惡く言ふ妾は御前の御身が心配なりと喞つ
▲外の人が總理になりても御前程には出來ないと惚氣交りの氣餤を吐くもは奇特乎

(明治四十一年七月七日 第三種郵便物認可)
明治四十一年七月七日　京城新聞　(火曜日)　第二號　(三)

社告

今回京城新聞を創刊仕候趣意に付ては偏に讀者諸君の御諒察を仰ぎ候微力素より當らずと雖も諸君の御同情に答ふるの覺悟に御座候間何卒舊京城新報同樣御愛顧の程伏て願上候

追而舊京城新報社に關する債權債務其他業務の一切は當方にて取扱申候に付左樣御承知相成度候

明治四十一年六月七日

京城西署西小門通
京城新聞社

●癩病の役人

△貴人のお側に侍べる高等ボーイ▽

木覓山下綠葉生ひ茂り河鹿金鈴を鳴らすの邊りに住み今世に時めき玉へる或る尊貴人なき方れ在せり此貴人のお側に侍べるチヨコマンの高等ボーイあり生れは伊豫國は東宇和郡とかにて兄弟二人ある兄は右の高等ボーイにて貴人に侍べりて其腰巾着の根付同樣にて何處に行かるゝも其腰にブラ下りて世を渡り弟は今は歐羅巴の或る所にありて矢張ボーイ見た樣な職に有付居れるが此兄弟の家は如何なる罪業や作りけん先祖代々より人の嫌がる癩病の血統を有することゝて兄弟が如何に力量ありて鄉黨の羨望する所となり居るも家の血統が癩病と來てるから鄉里に於て妻を娶らんとすれば彼れは癩病筋だから家の娘は遣られぬ何れもチンで其相談に乘らぬといふ有樣にて同地に於ては殆んど除者同樣に交際はして居らぬと云ふ始末なればボーイも何ぼうか鄉里より妻を娶りたいは山々なれど右の次第に誰れとて來て呉れる者なければ已を得ず或る人の妻たりし所謂出戻り女を宿の妻として貰ひ受けたり弟も同樣にて馬關の左る所より娶り兄弟とも鄉里の娘を逆に娶らざる所より見ても其癩病の系統あることが察せらるゝにあらずや然るに此の癩病なる者が遺傳性たるは勿論傳染性にて世に最も恐るべき忌むべき病氣たるは世の人の夙に知る所左るを何ぞや斯る恐れても怖るべき系統を有する者を高等ボーイとして千鈞より重き貴人のお側に侍せしむるとは實に危險至極のことゝいふべし此の如き危險なる人物は一刻も早く貴人の側を退け今回熊本へ新設の癩病院に送りて社會より隔離して忌む可き癩病菌を撲滅せられたきものなり

●南米倉町の刃傷

△賭博の上の立廻り△毆られた意趣返し△短刀にて斬り付け短銃を放つ△加害者其場にて逮捕さる△被害者死す

昨六日午前零時十分頃市内南米倉町に於て世にも忌はしき刃傷事件こそ起りたれ

▲加害者　は原籍東京市日本橋區蠣殼町三丁目平民當時龍山櫻町居住自動器械商木田德三郎(三十)と云ふ屈強の若者にして

▲被害者　は熊本市山崎町生れ當時南米倉町に居住する市澤清之助と云ひ一定の職業とてもなき者なるが加害者木田德三郎とは豫ての知合と見ゆ兇行當日德三郎は龍山より米倉町に來り市澤方を訪れたるにて其の際市澤方に於ては繩手某夫婦、越田某其他四五人の者車座をなして賭博の最中なりしかば德三郎も此等の面々とは數回顏を合はしたることある心安さより直ちに上り込みて一座に加はり賭博を初めたるは五日午後二時頃のことなりしとか、然るに德三郎は博運強かりしと見えて前記繩手某夫婦と共に連りに勝ち續けて遂に他の懷中殘らずを捲き上ぐるに至れるが一方負けたる連中は如何にもして之を取返さんと欲し德三郎に向ひ多少宛一同に貸し與へよ然すれば我等も繩手夫婦を相手に今一度最後の勝負をなすべければとて申込みたれども德三郎は素より斯かる言には耳を假さず已れ唯一人繩手夫婦と輪贏を決せんとし無我夢中となり居りたりき、斯くて午後七時頃に至りし時被害者清之助は德三郎が自分の家に來り傲然として他の金錢を捲き上げられたる者には尻目にも掛けず頑強にも繩手夫婦をのみ相手とする態度に業を煮やしたりと見え德三郎に一言二言の嫌味を云ひたるに茲に端しなく

▲一場の立廻　を初むる動機となりて果ては七八名の者互に入亂れて格鬪したるが此の時德三郎は清之助の爲めに頭部肩先き等を散々に毆られ一時其場に平駄張るに至れり、然れども德三郎の言條に失敬の廉ありたりとして清之助は如何な德三郎を容赦せず德三郎にして若し低頭平身して一同の前にて先きの失言を謝罪するにあらざれば決して此儘には返さじと敦圍きたれども德三郎は既に否と云ふ程毆られたることなれば此の上の謝罪は出來ずと云ひ張り双方の確執漸く殺氣を帶び來らんとす、爰に於て居合せたる他の者等は兎も角もと德三郎を龍山に一先づ引取らしめんとしたるが德三郎は毆られたるが悔やしさに何とかして此の恨み晴らし呉れんと容易に其場を動かざりしも一同の者にも先きに多少の反感を買ひ居ること故此儘にては自己の不利益なるを知り堪ね難き遺恨を遺して其身は一先づ龍山に引取るべく清之助方を立出でたるが此の時既に

▲已れ見て居れ　此の仕返しを何とするかとばかり深くも心に決する處ありたる者の如し此くて德三郎は龍山に立返りて後ちも憎き清之助に何ど仕返し爲て呉れようかと夫れのみを思ひ續けて知己兩三人にも清之助に毆られたる一伍一什を語りたるが彼れの眼は血走りて殺意は顏にも表はれ居りたりとか去れば知己の者等は德三郎の唯ならぬ氣色を見て再び京城に赴くは危險なりとて切に氣遣いたれども德三郎は更らに顧みず兼て所持する

▲短銃と短刀　とを懷に捻じ込みて其儘米倉町に來り清之助方に赴きて先刻の謝罪を爲すべく來れり戸外迄出でよと申入れぬ、然るに清之助は的切り仕返しとは思ひたれども德三郎が斯かる兇器を懷に呑み居るとは神ならぬ身の知る由なければ高が男一人の腕づく何程の事かあると云ふが儘に戸外に立ち出でたるに己れ能くこそ出で來りたれとばかり拔く手も見せず

▲鋭き短刀　を以て斬り付けたれば清之助は迅雷耳を蔽ふに暇あらざる德三郎の早業に避易して思はず後ろにタヂ／＼と引下りたるを此方は尚も斬り捲くりて四方一面杯をも漂さん鮮血を流して遂に清之助は其場に倒るゝに至れるが斯くても尚意に滿たざる者ありたるか德三郎は更らに短銃を取出して思い知つたかと今や一發放たんとする其の時豫て搜索上の要務を以て此の附近に出張し居りたる南部署工藤及び西部署林の兩刑事は唯ならぬ物音を怪しみて驅け付けたる面のあたり

▲ズドンとばかり　響きければ愈々曲物逃しはせじと直ちに德三郎に組み付きて更らに第二を發たんとする短銃をモギ取り其儘身柄を縛り上げ一方斯くと南西警察部に急報する所ありたれば南署よりは岡本警部巡査數名を率へて出張し西部よりは署長鈴木警視これ又部下數名と共に出張して取調ぶる處ありたり斯くて理事廳より田中檢事富久尾醫師等出張して成規の檢案をなすと共に被害者は取敢ず漢城病院に送りて應急の手當を施す處ありたるも遂に六日午前四時四十五分に至り絶息したり

▲被害者の傷　は左手腕關節後部中央に幅三仙米突深一仙米突の刺傷と左拇指の尖端を切落されたると一は左ち肋部に於て第一肋椎の高さより下外方に斜めに長さ深さ共各九仙米突の刺傷あり爲めに右腎臟は切斷され一部は腹膜を突通して腸管に達するものとあり爲めに出血夥しくして遂に死に至りし者なりと

▲德三郎の身柄　は一度び西部警察に引致したれども其後南部署に送附して目下取調中なり

●南部署の魔窟狩り

南部警察署に於ては一昨五日午前一時より同四時半に至る間に於て部內太平町長谷川町の兩魔窟に淫賣狩りを行ひたるに前數回の不成蹟にも似ず今回は好成蹟を舉げて實に左記十五名の白首及び常に其の媒介をなす雇主數名を串つなぎに引致するを得たれば孰れも昨日取調べの上拘留三日乃至五日の處分をなしたり　其の白首の顔觸れは太平町山崎權次郎方宗方サツキ(二十)手島ワカ子(二三)、同町米山亭山田イノ方秋川シヅ(三十)、長谷川町川村サヲ方福原マサヨ(十七)、同町二丁目井上伊代松方安藤ツチ子(十九)、同町三丁目池田ナチ方赤星フジ子(十九)、同町二丁目井下スミ方三島ヒサ(二十三)、同町三丁目渡邊キヨ方村橋タマ(五十)宮崎ヒサ(二十)、同町二丁目北村ハツ方土井セキノ(十九)、南大門通り三丁目石井キン方中島マツ(十七)諏訪フミチ(二十)長谷川町二丁目上田外二郎方吉住とく(十七)及び太平町渡邊鐵藏方二名にして前記雇主も亦拘留處分を受けたるは近來の快擧なりと云ふべし

●日々野雷風氏

先日來當地に武士道鼓吹の目的を以て劍武術會を催ふし日韓官民の間に喝采を博したる雷風日比野氏は門弟一同を率ゐ本日平壤へ向け出發せられたり平壤の官民諸氏は氏等の劍武術を見るの機會を得るを喜び居るとの事なり

●小火三件　五日午後八時半頃南帶洞百四十三統六戶金東雲方より出火したるも直ちに消し止め損害極めて輕微△同日午後四時十分頃明治町二丁目四統一戶劉漢龍方より出火したるも是れ亦大事に至らず消し止む△同じく六時三十分頃明治町一丁目百四番戸尾崎森吉方より出火したるを隣家の桑原某が認め直ちに消し止めたるが原因は尾崎の妻女が其の亡兒の百ヶ日に就き團子を拵へて燈明と共に佛前に供し其儘外出したるに燈明の洋燈破損して天井に燃ね移りたるなりと

●天然痘　長谷川町一丁目野村ヒサ(二十)は天然痘に罹り昨日青坡病院に送らる

●空鐵砲を射掛く　五日午前十一時頃竹園町二丁目太平三郎は空鐵砲を通行中の韓人李萬壽(十九)の面部に打ち掛け微傷を負はせて警察に引致さる

●不都合な塵芥捨　去る四日午前十一時頃民團役所使傭韓人桝元賀外三名が奬忠壇門前の溝際に塵芥を捨て居たるを銅峴分署の巡査に認められ民團役所の衛生監督村田某に引渡さる

●金無しに受質　南部珠峴一統九戸金大俊(四三)は四日午後八時頃竹園町河原田質店に至り豫て入質し置きたる衣類を受出さんとしたれど金錢を所持せず自分は元警務廳に奉職し居りたる者故近々恩賜金あるに付き夫れにて支拂ふべければ衣類だけは先きに返して呉れよとシツコク強請にぞ質屋の主人持餘して銅峴署に說諭方を願ひ出たり

●酒飲みの突合ひ眞平御免　去る四日午後八時頃銅峴分署附近にて泥棒／＼と呼はるものあるより銅峴署より日韓巡査數名直ちに走り出てゝ搜索したるに何の事ぞ泥棒にはあらで寺洞居住の宋秉燦(二十八)が朋輩の宋憲周(二十八)と二人にて近所の酒屋にて一杯傾けたるも倚飲み足らぬより秉燦は憲周に他にて更らに飲み直さんと相談をかけ憲周も應承諾したるも思へば底無しの秉燦に左樣何時迄も突合は出來ぬより俄かに逃げ出したるを以て秉燦が立腹し泥棒／＼と呼はりて追蒐けたる者と知れ二人とも散々お目玉を頂いて引下る

●醉漢怪まる　本町七丁目大工職後藤平次郎(四十)が去る四日午後十時頃泥醉して自家に歸らんとする處を通行の警官に怪まれ取調べられたるが癪に障り警官に喰つて掛りたれば已むを得ず引致せんとする所を同人の妻及隣家の者が飛んで出て何卒／＼と謝罪したるを以て將來を戒められて放たる

●盗まれても毆るな　五日午後五時過ぎ旭町三丁目川本庄太郎方店先きにある袴を窃取して逃げ去らんとする韓人あるを庄太郎の妻女マミが發見し引捕らへて毆り居りたるを通行の日本人某が更らに毆り付け頭部に負傷せしめたる爲め兩人共其韓人と共に南部署に引致されて取調中韓人は留置所より逃げ去りたれば取調べも何が何やら薩張り判らずマミと日本人とが却てお目玉を頂戴して引下りたりと

●果して泥棒　五日午後二時頃美洞巡査派出所前を風体怪しき韓人が洋靴一足を携へ行くを派出所の警官誰何すると其儘投げ棄てゝ逃げ出したれば引捕へて取調ぶると果して泥峴にて窃取したる事を自白したるを以て其儘引致

●荷車を置忘る　五日午後三時會洞市場附近に荷車一臺を置忘れたる者あり南署の警官發見して目下持主搜索中

●韓ドロ捕はる　竹洞居住李聖弼(三十)は豫て窃盗の嫌疑を受け居りたるが五日十二時頃南部署金刑事のため逮捕され目下取調べ中

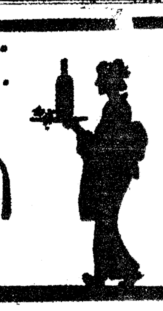
●夏雜吟●　青霞閑人

●京の水谷陰清く流れけり
●城跡の茂木に涼し氷店
●新枕色かはらじと誓ひけり
●聞きし時桃色ちらす村乙女
●發足を村外れまで見送れり
●行く途に心をつけど母の聲
●祝日を花月に催す酒の宴

廣告

美味にして滋養に富める好飲料





金銀牌　二十四個

蜂印香竄葡萄酒

東京 近藤利兵衛

貸地

南大門外吉野町約二千坪割貸
高燥にして景宜く水宜く滊車電車に近く出入に宜し希望の方は御來談被下度候

米國製五吋トランシット一臺賣却致候

京城吉野町一丁目
韓國殖產株式會社
電話七四番

貸地

一龍山元平式院前軍司令部拾五間道路左側約五千坪
但し五十坪を一區として割貸
右將來名望の地にて隨所申度候條御希望の御方は左記へ御來談被下度候也

京城明治町一丁目 森村太郎
京城本町二丁目 林田金次郎

法の上に眠る者は法律之を保護せずと苟も法の擁護に依り權利の伸張を圖らんとする日韓人士は學識經驗兼備の斯業專門家に依囑して其實行を確保せられよ

營業要目

一、民刑商事非訟事件の鑑定
一、同上事件に關する書類の作成
一、登記申請證明査證願に關する書類の作成
一、會社銀行組合の定款契約書類の立案
一、鑛山土地家屋の製圖測量
一、債權の取立讓受紛諍の仲裁
一、個人團体法人の法律顧問

明治大學出身
增本好三郎事務所
京城本町壹丁目(電話六二四番)

新築落成

本院儀豫て新築中の處今般工事落成に付從前の通り叮嚀親切に齒科全般の治療に從事す

●診察時間午前八時より午後五時迄

京城本町二丁目(五十八銀行横隣)
野田齒科專門醫院

カルヽス溫泉開業御披露

今般龍山新市街地に於て土地高燥風景佳絕にして交通便利なる漢江通りに地をトし茲にカルヽス泉を直輸入し溫泉場を新築開業仕り候娛樂的設備として階上に御休憩場を設け湯茶新聞雜誌碁將棋等を備へ付け他にコーヒー店の設備等を爲し叮嚀親切に御待遇申上見三階運動場よりは龍山新舊兩市街を眼下に見下し遙に京城全市街を目前に望見し春色雪景の眺望は勿論夏期は樓上の涼風に炎暑を忘るゝの好溫泉場に御座候間何卒開業當日より陸續御入湯被下度偏に奉懇願候
追而今廿三日開業仕候間向三日間は入浴劵半額に可致候

龍山漢江通三丁目十三號地
ゑり德
カルヽス溫泉

官許 醫學得業士 伊藤助先生二十年間 苦辛經驗 千試萬驗 驚く可き一大發明
たむし丸
●たむし、いんきん、しつ 特効藥
藥價 (内用藥)一名(一ヶ月丸) 五日分五拾錢 十日分九拾錢 廿日分一圓六拾錢 三十日分二圓十錢

本劑は塗り藥に非ずして輕症は十日間乃至二十日間連服重症と雖も三十日乃至四十日間連服に依り根治し再發且つ内攻の患ひなからしむ
●遠地患者御注文の節は送料内地八錢、淸韓三十錢、を要す●賣捌は全國到處の賣藥店に請賣す若し取次所無き地は本舖へ向け小爲替又は振替口座へ御拂込被下度候

發賣本舖 東京市日本橋區浪花町(浪花局隣)(電話浪花四〇六一番)(振替口座一四〇七三番) 龍雲堂藥舖

東京特約店	同 日本橋區瀨戶物町	玉置合名會社
	同 區米澤町	吉田萬珠堂藥局
	神田區橋本町	福井甚藏
	同 區旅籠町	大木合名會社
	同 區花房町	山崎帝國堂
大坂特約店	心齋橋博勞町	高橋盛大堂分店
	平野町二丁目	丹平商會分店
	西區船町橋詰	賣藥御賣會社
	伏見町堺筋入	谷回春堂

大賣出廣告



正札より一割引ひき

開店祝七週年之爲平素御愛顧報大安賣仕候間陸續御來店之程伏て奉願上候

自六月廿日 至七月十日

京城明治町一丁目
田中靴店

祝京城新聞創刊

中元御進物品荷揃ひ

ブドウ酒　佛蘭西菓子
シヤンペン酒　其他色々
ウヰスキー
ブランデイ
葉卷煙草
埃及煙草
露西亞煙草

京城本町
辻屋
本店 電話二四八番
支店 電話三六六番

開業廣告

アイスクリーム ヒヤシビール

花は昨日の夢と散り茂る青葉の色深く蝶の羽風も涼しき折柄日々に暑さのいや增せば例年の通りアイスクリームを調製し一杯二杯の出前よりヒヤシビールの御用命まで今回京城明治町大和湯隣の廣庭にてた手輕主義の腰掛けより湯上り浴衣の戻り道さては日中の暑さしのぎなごゝ夕暮から御散步旁々何卒御入來の上倍舊の御ひいき偏に希上候也

京城本町座横

會席御料理
蝶々
電話六三〇番

松丸太

松材 松薪 材木一切並ニ柳材類

弊店所有の松山より伐り出しに付大勉强可仕候間多少に不拘御用命の程奉願上候

麻浦孔德里大院君墓地
伐材出張事務所

●●驚く可き染色法の進步●●

▲洋服類丸染 ▲帽子類改造 但し仕立たる儘

弊店儀今般左記の處に於て開店仕最新流行の良染法と工師特得の技術とにより如何なる古物も一見新物と異ならざる樣頗る完全に染め直し加之も大々的廉價且つ迅速に調達仕候間何卒續々御用命の程伏て奉願上候　敬白

京城新町三丁目十八番戶(井門樓横入)
横濱シライ商會出張所

●●如何なる古物も新調同樣になる●●

北山染工場
工師 北山義政
出張員 管谷武之助

開店御披露

京城南山町一丁目

會席御料理
にし喜

にしき特色
江戶自慢 江戶自慢庖丁切味
江戶生粹藝者

四方各位益々御盛榮之段奉賀候弊店此度元湖月跡に於て開業致候間御愛顧御引立の上陸續御來駕之程伏而奉願候敬白

夏物大賣出し

新拔新奇
夏帽子
歐米最新流行品
洋傘 空氣呼鈴

京城本町六丁目
雜貨商
中塚支店

◉正札より二割引

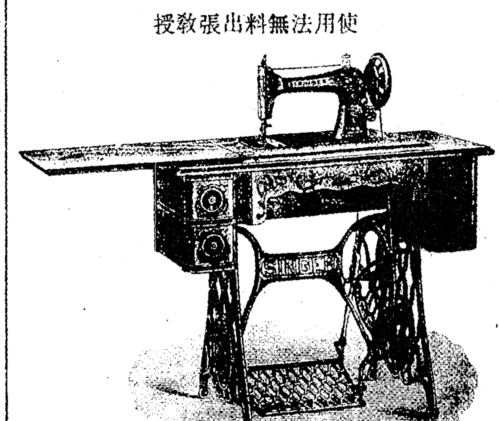
夏季飲料

警視廳御檢査濟
ラムネ

京城旭町二丁目
竹田林太郎製造
技師藥劑師 濱口源太郎
製造者 馬渡壽造

シンガーミシン

月賦販賣及賃貸、一時拂は更に低減
使用法無料出張教授



京城西小門內
シンガー裁縫機械會社

◉會員募集(規則書入用ノ方ハ郵稅二錢封入)

初等、中等、高等、各科ノ語學講習生ヲ募ル

別科國語及漢文ヲ敎授ス◉本會ハ各專攻ノ敎師擔任ス◉個人敎授、出敎授、通譯、起稿文飜譯等ノ需ニ應ズ◉會員ニ何時入會セラルヽモ入會當日ヨリ起算シテ向フ滿三十日間ヲ一ケ月分ニ換算スルノ便益アリ◉會員ノ希望ニヨリ晝夜何時ニテモ授敎ス

京城大和町二丁目(駐劄軍司令部前通)
日韓英 語學講習會

開業御披露

揚弓場
並に◉コーヒー、紅茶◉其他◉氷水一切◉◉

京城旭町三丁目
花遊亭

夏季最良御菓子
紅葉山 クルミプル
泡雪玉 垂
松スワマ 葛饅頭

原料精撰
◉食パン
右御申込に依り毎日出來上りしもの配達可仕候

京城本町四丁目
和洋御菓子パン製造所
貞島事 寒水堂
電話一四一番

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金弁參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番